

選択的評価事項に係る評価

自己評価書

平成22年6月

福岡女子大学

目 次

I	大学の現況及び特徴	1
II	目的	2
III	選択的評価事項B 正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況	4

I 大学の現況及び特徴

1 現況

- (1) 大学名 福岡女子大学
 (2) 所在地 福岡県福岡市東区香住ヶ丘1-1-1
 (3) 学部等の構成

学部：文学部、人間環境学部

研究科：文学研究科、人間環境学研究科

関連施設：女性生涯学習研究センター、産学官地域連携センター、国際交流センター、情報センター、学生キャリア支援センター

- (4) 学生数及び教員数（平成22年5月1日現在）

学生数：学部802人、大学院48人

専任教員数：51人

助手数：10人

2 特徴

- (1) 沿革

本学は、大正12年(1923年)に、我が国初の公立の女子専門学校として開校された福岡県立女子専門学校(文科、家政科)を母体とし、昭和25年(1950年)、第二次世界大戦後の学制改革により4年制の大学に昇格して福岡女子大学として開設された。当初は学芸学部(国文学科、英文学科、生活科学科)のみの一学部であったが、昭和29年(1954年)に、文学部(国文学科、英文学科)と家政学部(家政学科-食物学専攻・被服学専攻-、家庭理学科)の二学部体制となった。

国際化・情報化の進む厳しい時代を生き抜くための「鋭い思考力」と「総合的な判断力」を身に付けた学生を養成すべく、さらに教育・研究の充実を図って、平成5年(1993年)に、大学院文学研究科修士課程(国文学専攻、英文学専攻)が設置され、平成9年(1997年)には、大学院文学研究科英文学専攻博士後期課程が設置された。

一方、家政学部は、平成7年(1995年)に、21世紀の人類の主要課題が「環境」と「健康」であるとの認識のもとに、自然科学的観点から人間環境学の教育、研究を行うため、環境理学科、栄養健康科学科、生活環境学科の3学科からなる人間環境学部として発展的に改組された。さらに、過去の伝統的基盤の上にさらに質的充実を図る措置が緊急の課題となり、平成12年(2000年)には、大学院人間環境学研究科修士課程(環境理学専攻、栄養健康科学専攻、生活環境学専攻)を発足させた。

このように本学は、開学以来87年の歴史と伝統をもち、

その間に送り出した10,000名を超える卒業生は各方面で活躍し、広く社会に貢献している。

- (2) 大学の理念と改革

本学の教育目的の特徴は、前身である福岡県立女子専門学校の初代校長 小林照明が学生に告げた建学の精神にうかがえる—「新時代の男女の機会均等へ第一歩を印する諸姉は、校舎の貧しさに心揺るがすことなく、内面的教養の充実に専心し、理想高くリファインされた淑女として、社会の先覚者として自覚を持って勉学されたい」。この精神は現在まで引き継がれ、学則第一条に、本学の目的は「広く知識を授け、専門の学芸を教授研究」とともに、「知的、道徳的及び創造的能力を備えた女性を育成し、もって文化の向上と社会の発展に寄与すること」であると述べられている。

本学は平成18年4月から公立大学法人に移行したが、第1期中期計画(平成18~23年度)では、①教育、②研究、③社会貢献、④業務運営、⑤財務、⑥評価、⑦情報公開、⑧大学改革の推進の8項目を立て、計画を順調に実施してきている。この中で特に強調している特色は次のとおりである。

教養・専門教育の中で、職場、家庭、地域など社会の様々な分野において、重要な役割を担うことができるよう、コミュニケーション能力、判断力、実行力を身に付けた女性を育成することを教育の目的としている。また、就学中に社会活動等を実践し、女性の「自立性とリーダーシップ」を育むための授業内容を充実させている(現代GP「男女共同参画社会をめざすキャリア教育」)。

また、公立女子大学として、女性の全生涯を真に捉える立場から、「①中学・高校から大学にわたる修学期、②就労・育児期、③壮年・高齢期」の代表的な三期間に分けて、それぞれに適切な学習プログラムを提供することを心がけている。

これまでの本学の理念に加えて、平成20年11月、時代の変化に柔軟に対応できる豊かな知識と確かな判断力、しなやかな適応力を持ち、アジアや世界の視点に立って、国内はもとより、海外の国や地域において、より良い社会づくりに貢献することのできる女性の育成を改革の基本理念とする「福岡女子大学改革基本計画」を策定し、平成23年4月を目途に、新たに一学部三学科体制の新学部による新次元での大学改革を進めている。

Ⅱ 目的

福岡女子大学は、「教育基本法及び学校教育法に基づいて、広く知識を授け、専門の学芸を教授研究して、知的、道徳的及び創造的能力を備えた女性を育成し、もって文化の向上と社会の発展に寄与すること」（学則第1条）を目的に掲げ、平成18(2006)年の公立大学法人化にあたっても、本目的を学則において継承している。さらに、平成5年(1993年)、平成9年(1997年)及び平成12年(2000年)に各々開設された大学院では、過去の伝統的基盤の上にさらに教育・研究の充実を図るため、「学術の理論及び応用を教授研究し、精深な学識と研究能力等を養い、文化の進展に寄与する」ことを目的としてきた。

【福岡女子大学の使命】

福岡女子大学は、その歴史と伝統を大きな資源とし、学生の自主性・自発性を喚起する教育を行い、職場、家庭、地域など社会の様々な分野において重要な役割を担うことができる優秀な女性を育成することを使命とする。

【福岡女子大学の目標】

平成18(2006)年に移行した公立大学法人の第1期中期目標では、大学の基本的な目標として次の8項目を掲げている。

1. 教育

「職場、家庭、地域など社会の様々な分野において、重要な役割を担うことができるよう、コミュニケーション能力、判断力、実行力を身に付けた女性を育成する。」

(1) 特色ある教育の展開

福岡女子大学は、自らの言葉で相手と対話し、理解させることができるコミュニケーション能力、的確に課題を解決できる判断力、自らの役割を認識して責任ある行動をとることができる実行力を育成するための教育を実施する。

(2) 教員の教育能力の向上

教員の個人業績評価制度と任期制を導入し、教育能力の向上と教育活動の活性化を図る。個人業績の評価は授業活動を中心として行い、その結果を人事や給与に反映させ、教員の職務へのインセンティブの付与を図る。

(3) 優秀な学生の確保・育成

大学が求める優秀な学生を確保するため、高校訪問、出前講義、オープンキャンパスなどの広報活動を充実させ、高校生等に福岡女子大学の魅力を広く伝える。また、入試方法の見直し、厳格な成績評価の実施などにより、優秀な学生を選抜し、育成する。シラバスに、各科目の到達目標と成績評価基準を明確に示して学生の目標設定を容易にし、学生の学習意欲を高め、自主的な学習を促す。

(4) 就職支援の充実

就職を希望する学生を支援するため、独自に企画したインターンシップの実施をはじめ、就職先開拓や求人情報の提供など、教職員が一体となって就職支援の充実を図る。また、在学生だけでなく、卒後の未就職者に対しても支援を実施する。

2. 研究

「大学の教育や社会の発展に役立つ研究を推進する。」

福岡女子大学は、試験研究機関や他大学との共同研究、産学官連携などを通じ、大学の教育と社会の発展に有用な研究を重点的に推進する。研究費については、大学の財源を効果的に配分するとともに、外部研究資金の獲得に積極的に取り組む。

3. 社会貢献

「大学の保有する人材、知識、施設等を社会のために活用する。」

大学が保有する人材や知識等を活用して、就業中の女性や転職・復職を希望する女性を対象としたリカレント教育などを実施し、積極的な社会貢献を果たす。

4. 業務運営

「理事長のリーダーシップのもと、主体的・自律的な大学運営を確立する。」

大学は、理事長のリーダーシップのもと、全学的な教育研究目標を策定し、大学の有する資源を最大限に活用して、主体的・自律的な大学運営を確立する。理事長を補佐するため、事務局による支援体制を強化する。

5. 財務

「経営者の視点に立って、法人の財政運営を行う。」

大学は、その運営が公的資金に支えられていることを踏まえ、経営者の視点に立って、不断の経営努力を行う。収入については、重要な自己財源である学生納付金のあり方について検討するとともに、外部研究資金の獲得に努め、社会人向け教育サービスや資産の有効活用などによる新たな収入の確保にも積極的に取り組む。経費については、人員配置や業務内容の見直しを推進し、その抑制を図る。

6. 評価

「評価を厳正に実施し、大学運営に反映する。」

教育・研究その他大学運営全般についての自己点検・評価を厳正に実施するとともに、その評価結果を速やかに公表する。計画・実行・評価・改善の仕組みを確立し、教員の個人業績評価、県評価委員会の評価及び認証評価機関の評価を、大学運営の改善に速やかに反映させる。

7. 情報公開

「情報公開を積極的に推進する。」

入学希望者、学生、県民、企業などに対し、次のような情報を積極的に提供する。

- ・大学や教員の評価に関する情報
- ・組織、教職員、施設設備、入学試験などに関する情報
- ・カリキュラム、シラバス、教員の研究成果や地域貢献活動などに関する情報
- ・学生の就職支援や卒業生の進路状況に関する情報
- ・公開講座、大学施設の開放などに関する情報
- ・予算や決算など財務に関する情報

8. 大学改革の推進

「福岡女子大学改革基本計画」に基づき、平成23年度を目途に、学部学科の再編及び新たな教育システムの構築をはじめとする抜本改革に取り組む。」

平成20年11月「福岡女子大学改革基本計画」が策定され、平成23年4月発足を目指して、新学部（一学部三学科）による学士課程の教育体制の準備を進めている。この新体制の学部では、「国際性」を涵養し、「グローバル社会の課題に主体的に取り組む、文理を統合した多元的な知識を活用してそれを解決に導く総合的能力」を養成し、持続可能性社会の実現に寄与する女性人材の育成を目指す。

Ⅲ 選択的評価事項 B 正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況

1 選択的評価事項 B 「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」に係る目的

本学における「正規課程の学生以外に対する教育サービス」は、公立大学としての重要な使命の1つである「地域貢献」に関する様々な施策において実施している。公立大学法人福岡女子大学定款の第24条第4号では、「公開講座の開設その他の学生以外の者に対する学習の機会を提供すること」を法人の業務範囲と規定している。さらに、平成18年度に公立大学法人化するにあたり策定された中期目標において「大学の保有する人材、知識、施設等を社会のために活用する」が謳われ、「大学が保有する人材や知識等を活用して、就業中の女性や転職・復職を希望する女性を対象としたリカレント教育などを実施し、積極的な社会貢献を果たす」ことを本学の特色として謳っている。この中期目標によって作成された中期計画の社会貢献の項目において、「女性の全生涯を見通して捉えたキャリア教育・生涯教育」のために具体的な方策を定め、「正規課程の学生以外に対する教育サービス」を実施している。

2 選択的評価事項 B 「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」の自己評価

(1) 観点ごとの分析

観点B-1-①： 大学の教育サービスの目的に照らして、目的を達成するためにふさわしい計画や具体的方針が定められているか。また、これらの目的と計画が周知されているか。

【観点到る状況】

中期目標に示された目的に基づき、中期計画において、青少年期の教育支援、就労期の教育支援、壮年・高齢期の学習支援という項目別に、具体的な実施事項を定めている。また、女性生涯学習研究センター、国際交流センターを中心に、地域住民を対象とした生涯教育の実施、国際交流の推進についても具体的な実施事項を定めている。(資料B-1-①-A)。さらに、中期計画に基づき年度計画を定め、年度ごとの具体的な計画を定めている(資料B-1-①-B)。大学が設置されている福岡市東区を中心として、区内大学・高校、小中学校と共同での活動(福岡市東区コミュニティユース事業)にも積極的に参加している。

これらの中期目標、中期計画、年度計画は大学ホームページに掲載し、広く学内外に公表している。個々の取組においても、リカレント教育については広報用リーフレットを作成し、地方公共団体、教育機関等に配付している。各種公開講座については、講座情報を掲載したポスター、リーフレットの作成、配付や大学ホームページでの公表、福岡市広報への掲載等を通じて、広く周知を図っている(資料B-1-①-C)。特に、公開講座については、女性生涯学習研究センターが一元的に計画、運営を行い、センターのホームページにて新しい情報を随時公開している(資料B-1-①-D、別添資料B-1-①-1)

資料B-1-①-A 中期計画(抜粋) (URL: http://www.fwu.ac.jp/info_disc/pdf/midplan2009.1.28.pdf)

社会貢献 大学の保有する人材、知識、施設等を社会のために活用する。	1. 女性の全生涯を見通して捉えたキャリア教育・生涯教育 青少年期、就労期、壮年・高齢期の女性に対する教育支援・学習支援を実施する。 ①小中学校や高等学校との連携(青年期の教育支援) ②資格取得も含んだ再教育プログラム(リカレント教育)の提供(科目等履修生制度の活用等)(就労期の教育支援) ③正規の授業開放による教育の実施(科目等履修生制度の活用)(壮年・高齢期の学習支援) ④心身の健康や生き甲斐を探究する各種公開講座及びホームページによる情報提供の充実(壮年・高齢期の学習支援) 2. 教育成果の活用による地域貢献および国際交流の推進 ①女性生涯学習研究センターへの改組と福岡女子大学人材バンクの開設 ②国際交流・留学生センターの設立
--	--

資料 B-1-①-B 公立大学法人福岡女子大学 平成 22 年度・年度計画

(URL : http://www.fwu.ac.jp/info_disc/pdf/yearlyplan2010.pdf)

中期計画		年度計画	
項目	実施事項		
1 女性の 全生涯 を見通し て捉えた キャリア 教育・生 涯教育	1 【小中学校や高等学校との連携(青年期の教育支援)】 大学からの出張講義や大学での体験授業、教師に対するワークショップ、また大学生と生徒との交流支援など、多様な視点からの教育連携を図る。(文学、国際文化、環境、栄養・健康科学領域など)	1	○高校への出張講義を実施する。(出張講義 20回、受講者アンケート良好評価 70%) ○高校生向けの体験授業を実施する。(体験授業 5 回、受講者アンケート良好評価 70%)
	2 【資格取得も含んだ再教育プログラム(リカレント教育)の提供(科目等履修生制度の活用等)(就労期の教育支援)】 ①正規の授業の開放による各学科・専攻のリカレント教育を提供する。 (取得できる資格) 国文学科:国語教員、司書教諭 英文学科:英語教員、司書教諭 環境理学科:理科教員、危険物取扱者、基本情報技術士 栄養健康科学科:家庭科教員、栄養教諭、管理栄養士 生活環境学科:家庭科教員、インテリアプランナー、2級建築士 ②社会人を受け入れる学習環境(履修年限の弾力化、託児施設との連携など)の整備・充実を図る。	2	○リカレント教育を実施するとともに、広報用パンフレットを作成して広報活動を行う。 ○教員免許更新制に基づく免許状更新講習を実施する。(国語、理科) ○社会人受け入れを推進するため、長期履修制度をホームページに掲載し、周知を図る。 ○数値目標 ・受講者数(科目等履修生)3人 ・受講者アンケート良好評価60% ・免許状更新講習受講者数(延べ) 90 人
	3 【正規の授業開放による教育の実施(科目等履修生制度の活用)(壮年・高齢者の学習支援)】 「言語・文学・文化」と「健康・生活・環境」に関する学部・大学院における専門教育を提供する。	3	○正規の授業科目の中から「おすすめ科目」を整備するとともに、広報用パンフレットを作成して、広報活動を行う。 ○数値目標 ・受講者数 4人 ・受講者アンケート良好評価 60%
	4 【心身の健康や生き甲斐を追求する各種公開講座およびホームページによる情報提供の充実(壮年・高齢期の学習支援)】 ①壮年・高齢者を対象にして、下記のような公開講座等を開講する。 ・心身の健康を保つ教育 (心理学・哲学・文学・体育学・栄養学等の文理両分野の教養講座) ・人生観を共に考える教育:生死について考えることによる充実した生活 (心理学・哲学・教育学・文学・生命科学等の教養講座) ・現代的課題に関する教育 (環境問題、多文化理解、生命倫理等の教養講座) ②受講者に対して、ホームページや広報誌等による情報提供を行うなどして、生涯学習を支援する。	4	○壮年・高齢者にニーズのある教養講座(心身の健康、人生観、現代的課題等)の継続実施 ○受講者への講座情報のメール配信の実施 ○数値目標 ・公開講座数(延べ回数) 50回 ・各講座受講者数 60名程度 ・受講者アンケート良好評価 75%
2 教育研究 の成果の 活用 による 地域貢献 および 国際交流 の推進	1 【女性生涯学習研究センターへの改組と福岡女子大学人材バンクの開設】 ①現生涯学習研究センターを女性生涯学習研究センターへ改組し、地域の生涯学習の要望に一層応える。 ②福岡女子大学人材バンクの開設により、地域貢献と県行政への貢献を一層図る。 ※ 生涯学習講座の充実のために、人材バンクでは本学の人材について専門性や提供できるサービス等の情報をまとめる。	1	○人材バンクの登録情報をホームページに掲載する。また、人材バンクの登録情報を充実するため、登録対象者を拡大する。 ○数値目標 ・登録者数 30 人
	2 【国際交流・留学生センターの設立】 ①国際交流・留学生センターの設立 ②アジアからの留学生支援体制の充実及び海外留学・研修支援制度の充実 ③学生交流及びアジア・太平洋地域の大学・研究所との学術交流による女子高等教育の推進 ④国際交流・留学生センターの広報充実	2-1	○海外留学の支援制度として、海外の大学への短期留学・研修プログラムを実施する。 ・カリフォルニア州立大学ノースリッジ校(アメリカ)語学研修 ・オークランド大学(ニュージーランド)語学研修 ○国外からの留学生支援制度として、チューター制度を継続実施する。 ○数値目標 ・海外への研修参加者数 20 人
		2-2	○海外大学(提携校)の学生を短期で受け入れ、本学学生との交流事業を行う。 ・タシケント国立東洋学大学(ウズベキスタン) ・カリフォルニア州立大学ノースリッジ校(アメリカ) ○数値目標 ・国外からの留学生数 15 人

資料B-1-①-C 大学ホームページでの公表状況

項目	URL
中期目標・中期計画・年度計画	http://www.fwu.ac.jp/info_disc/public.php
公開講座	http://www.fwu.ac.jp/rcle/koukai.html
エコキャンパスプロジェクト・ 「香椎MAP」作成 (福岡市東区コミュニティユース事業)	http://www.fwu.ac.jp/info_disc/contribution.php

資料B-1-①-D 女性生涯学習研究センターのホームページでの公開講座等の案内



福岡女子大学
女性生涯学習研究センター

HOME > 公開講座案内

英語 English / ドイツ語 Deutsch / 中国語 Chinese / 韓国語 Korean

○公開講座○

H O M E

センターについて

公開講座案内

人材バンクについて

蔵書・資料

学術研究助成

センターニュース

アクセス

利用案内

リンク

平成 22 年度の公開講座・講演会のご案内

※講座は全て男女・年齢問わず参加出来ます。

[土曜公開講座「戦争と文学」](#)
5月～2月の毎月第2土曜日開催 ※5月、8月、9月は第3土曜日開催
[春季公開講座「食・健康—もっと知って、もっと楽しく—」](#)
6/9 (水)、6/16 (水)、6/23 (水)
[秋季公開講座「エコってなあに？」](#)
10/15 (金)、10/22 (金)、10/29 (金)
[自由企画講座「堀辰雄の全小説を読む」](#) 4月9日～翌年3月25日 無料
応募受付終了しました。

[自由企画講座「ドイツの映画史」](#) 5/28(金)、6/4 (金)、11 (金)、18 (金)、25 (金)、7/2 (金) 無料
[自由企画講座「障がい者対象 『気楽にパソコン初歩』」](#) 7/16 (金)、23 (金)、30 (金) 無料
応募締め切り 6/30 (水) 17時
[自由企画講座「経済で見る日本と中国」](#) 12/8(水) 無料

お知らせ
福岡女子大学では、現在講座や講演会の情報をメールにて配信しております。ご希望の方は rcle@fwu.ac.jp までお申込下さい。

平成 21 年度の公開講座・講演会のご案内

※講座は全て男女・年齢問わず参加出来ます。

[土曜公開講座「福岡女子大学の研究最前線—ジェンダーから環境問題まで—」](#)
5月～2月の第2土曜日開催 ※11月のみ第3土曜日終了しました。
[春季公開講座「文学と女性」](#) 5/27 (水)、28 (木)、29 (金) 終了しました。
[秋季公開講座「発見!衣服」](#) 10/15 (木)、22 (木)、29(木) 終了しました。
[自由企画講座「市民を対象にした文学—夏目漱石の全小説を逆から読む」](#) 4月～翌年3月 無料 募集終了しました。
[自由企画講座「商人と職人—古文書で見る江戸時代の京都 \(2\) — \(全2回\)」](#) 10/23 (金)、10/30 (金) 無料終了しました。
[かすみ祭第10回特別講演会\(共催\)「環境問題について学ぶ」](#) 11/7 (土) 無料 終了しました。

お知らせ
福岡女子大学では、現在講座や講演会の情報をメールにて配信しております。ご希望の方は rcle@fwu.ac.jp までお申込下さい

別添資料B-1-①-1 福岡女子大学生涯学習研究センター開設 20 周年記念誌

【分析結果とその根拠理由】

中期目標で示された目的に基づき、中期計画、年度計画により、具体的な計画が定められている。また、これらの目標、計画は、大学ホームページで公表されている。

以上のことから、大学の教育サービスの目的に照らして、目的を達成するためにふさわしい計画や具体的方針が定められており、また、これらの目的と計画が周知されていると判断する。

観点B-1-②： 計画に基づいた活動が適切に実施されているか。

【観点に係る状況】

B-1-①で設定した計画に基づいて設定した数値目標等を達成すべく、以下のような活動を実施している。

(1) 青少年期の教育支援

県内を中心とする高校への出張講義を実施している（平成 21 年度、年度計画実施予定件数 20 件、実績 19 件：資料 B-1-②-A）。本学に来校した高校生を対象に、体験授業を実施している（平成 21 年度実績 2 件）。これらの出張講義、体験授業は、高大連携の一環として入学試験部会において企画・実施されている。

また、人間環境学部では文部科学省のスーパーサイエンスハイスクール事業（SSH）やサイエンス・パートナーシップ・プログラム事業（SPP）により、高校と連携して、高校生に先端研究に関する体験授業等を実施している。SSH については、指定校の福岡県立小倉高等学校と連携して、高校生の体験学習や自主研究支援を平成 17 年度から現在まで継続しており、一方 SPP については、本学近隣の 2 校（福岡県立福岡高等学校、福岡県立香住丘高等学校）と連携してきた。

(2) 就労期の教育支援、壮年・高齢期の学習支援

本学では学習の機会を広く一般の女性の方に開放することを目的に、学則及び大学院学則に基づき聴講生、科目等履修生、研究生の制度を設け、本学での授業科目の履修や研究活動を提供している（資料 B-1-②-B&C、別添資料 B-1-②-1）。他大学との単位互換協定に基づき、大学院においては、他大学の学生も受け入れている。また、平成 21 年度から教員免許更新制に基づく免許状更新講習を実施している（国語、理科）。国語については、「国語に関わる最新研究」のテーマで、本学教員 8 名により 18 時間の講習を実施した。理科については、「生命とそれをめぐる環境に関するサイエンス」のテーマで、本学教員 9 名により 18 時間の講習を実施した。

昭和 60 年に設立された女性生涯教育資料室が前身である女性生涯学習研究センターは、地域の生涯学習支援と女性学関連の研究支援を行ってきている。本センターでは、春季、秋季および土曜公開講座や自由企画講座などの多種多様な講座を開講し、本学教員の研究成果等を地域住民をはじめとする一般向けに分かりやすく情報発信している（資料 B-1-②-D）。これらの講座は毎年 20 名程度の講師により運営されているが、本学の全教員の約 1/3 が参加し、本学の人的資源が有効に活用されている。資料 B-1-②-E 及び F に公開講座の例を示す。

(3) 国際交流の推進

国際交流センターを中心として、ウズベキスタンのタシケント国立東洋学大学、ブハラ国立大学、およびカリフォルニア州立大学ノースリッジ校からの短期留学生を受け入れている(資料B-1-②-G)。さらに、本年度5月に文部科学省に設置認可申請を行った新学部案では、「国際性」を涵養し、「グローバル社会の課題に主体的に取り組み、文理を統合した多面的な知識を活用してそれを解決に導く総合的能力」の育成を目指しており、積極的に留学生を受入れるとともに、異なる歴史的・文化的背景を持つ世界の優秀な学生と共に切磋琢磨して学ぶ場を提供する予定にしている。このような学びの環境を提供するため、平成20年から、上記の大学を含む海外の11大学と学術交流協定を締結してきている(資料B-1-②-H)。

(4) 地域連携活動ー福岡市東区コミュニティユース事業への参画や食育活動

本学の地元である福岡市東区と共働で地域コミュニティを活性化しようとする事業に、本学の学生と教職員が2つのプロジェクトで参画している(URL: http://www.fwu.ac.jp/info_disc/contribution.php)。1つは本学のエコボランティア(福岡女子大学ECVO(えくぼ): **Eco Volunteer Activities by Students in Fukuoka Women's University**) 活動の一環として、地域の小学生対象に夏休み子ども実験教室「楽しく学ぶ地球環境」等を主催した。もう一つの取組として、東区香椎地区の魅力を国内外に知ってもらうための英語での地図「香椎MAP」を作成し、公開した。

また、しょくぼねっと(食育ボランティア学生ネットワーク)では、学生と教員が共同して創意工夫を凝らした食育カルタを作成するなどして、保育園・幼稚園、小学校等様々な場を利用して食育の指導・支援を行っている。

資料B-1-②-A 平成21年度出張講義一覧

	高校名	学年	時間	回数	受講者数	内容
1	福岡中央高校	2 学年	80 分	1	30	藤原定家・文学史登場
2	博多女子高校	2.3 学年	50 分	2	21	持続可能社会とリサイクル
3	九産大付属九州高校	1.2 学年	70 分	1	26	教科書に載らない(検定不可)小説
4	新宮高校	1-3 学年	120 分	1	31	万葉のユーモア(話語)
5	新宮高校	1-3 学年	120 分	1	30	持続可能社会とリサイクル
6	大分県立日田高校	2 学年	110 分	1	34	英語のリズム、イントネーションを学ぼう
7	佐賀県立唐津東高校	1.2 学年	60 分	2	77	私たちと「ジェンダー」
8	熊本県立人吉高校	1.2 学年	90 分	1	22	地球環境と国際政治
9	八幡中央高校	1.2 学年	50 分	1	34	ライフステージ別の栄養を考える
10	小倉東高校	2 学年	90 分	1	20	生命の設計図を変更する
11	八幡中央高校	1.2 学年	50 分	1	30	言語遊戯からみた日本語
12	城南高校	2 学年	90 分	1	15	保健・医療・福祉を変える栄養学
13	筑紫女学園高校	2 学年	70 分	1	20	説話から見た中世の社会
14	西南学院高校	2 学年	90 分	1	11	住環境を科学する
15	筑前高校	2 学年	80 分	1	23	健康な人生への処方箋
16	小倉南高校	1.2 学年	90 分	1	59	国際協力について
17	福工大付属城東高校	1 学年	90 分	1	23	身の回りのプラスチックについて
18	中村学園女子高校	1.2 学年	60 分	1	24	藤原定家・文学史登場
19	玄海高校	1.2 学年	50 分	2	78	国際協力について

資料B-1-②-B 福岡女子大学学則

<p>福岡女子大学学則 (抜粋) (聴講生) 第35条 1科目又は数科目の聴講を希望する女子で本学が適当と認めた者には、聴講を許可することがある。 (科目等履修生) 第36条 本学の授業科目の一部を修め単位を修得しようとする女子で、本学が適当と認めた者には、選考のうえ、科目等履修生として入学を許可することがある。 (研究生) 第38条 大学卒業生又はこれと同等以上の学力を有する女子で、本学において特定の研究を希望する者については、選考のうえ、研究生として、許可することがある。</p>
--

資料B-1-②-C 福岡女子大学大学院学則

<p>福岡女子大学大学院学則 (抜粋) (聴講生、科目等履修生、研究生、外国人特別学生及び特別聴講学生) 第31条 本学大学院に聴講生、科目等履修生、研究生、外国人特別学生及び特別聴講学生の制度を置く。 2 聴講生、科目等履修生、研究生及び外国人特別学生に関し必要な事項は、学長が別に定める。</p>
--

資料B-1-②-D 公開講座実施状況 (平成21年度) と開催予定 (平成22年度)

平成21年度	講座名	回数
土曜公開講座	福岡女子大学の研究最前線—ジェンダーから環境問題まで— http://www.fwu.ac.jp/rcle/pdf/koukai_09sat.pdf	10
春季公開講座	文学と女性 http://www.fwu.ac.jp/rcle/pdf/koukai_09spr.pdf	6
秋季公開講座	発見! 衣服 http://www.fwu.ac.jp/rcle/pdf/koukai_09aut.pdf	6
自由企画講座	市民を対象にした文学講座 http://www.fwu.ac.jp/rcle/pdf/koukai_09bungaku.pdf	19
	商人と職人 http://www.fwu.ac.jp/rcle/pdf/koukai_09jiyuukomonjo.pdf	2
平成22年度	講座名	
土曜公開講座	戦争と文学 http://www.fwu.ac.jp/rcle/pdf/koukai_10sat.pdf	10
春季公開講座	食・健康—もっと知って、もっと楽しく— http://www.fwu.ac.jp/rcle/pdf/koukai_10spr.pdf	6
秋季公開講座	エコってなあに? http://www.fwu.ac.jp/rcle/koukai/koukai_10aut.html	6
自由企画講座	堀辰雄の全小説を読む http://www.fwu.ac.jp/rcle/koukai/koukai_10jiyuu1.html	18
	ドイツの映画史 http://www.fwu.ac.jp/rcle/koukai/koukai_10jiyuu2.html	6
	障がい者対象 『気楽にパソコン初歩』 http://www.fwu.ac.jp/rcle/koukai/koukai_10jiyuu3.html	3
	経済で見る日本と中国 http://www.fwu.ac.jp/rcle/koukai/koukai_10jiyuu4.html	1

資料B-1-②-E 平成22年度土曜公開講座

平成22年度福岡女子大学土曜公開講座 戦争と文学

日 程：平成22年5月～平成23年2月の毎月第2土曜日

※ 5月、8月、9月は第3土曜日に開催

時 間：13:30～15:00（受付13:00～）

会 場：福岡女子大学 附属図書館1階 視聴覚室

対 象：高校生以上の男女

受講料：3,000円（全10回分） ※高校生、本学学生は無料



日程	テーマ	講師
5月15日	中世文学研究者の「戦争文学」	今井 明 福岡女子大学文学部教授
6月12日	『古事記』の叛乱物語と恋愛譚	月野 文子 福岡女子大学文学部教授
7月10日	描かれる「戦国」の変化	大久保 順子 福岡女子大学文学部准教授
8月21日	漱石と戦争	石井 和夫 福岡女子大学文学部教授
9月18日	ヴァイキングとアングロ・サクソン	村長 祥子 福岡女子大学文学部准教授
10月9日	詩人バイロンとナポレオン	田吹 長彦 福岡女子大学文学部教授
11月13日	近代の戦争と英詩	スコット・ピュー 福岡女子大学文学部教授
12月11日	『武器よさらば』における ヘミングウェイの戦争観について	馬場 弘利 福岡女子大学文学部教授
1月 8日	第二次世界大戦とアメリカ小説	渡邊 真理子 西九州大学准教授
2月12日	戦争を語るなんて、できるの？ —ベトナム戦争以後の『戦争と文学』を考える—	田吹 香子 福岡女子大学非常勤講師

申し込み・問い合わせ先

福岡女子大学 女性生涯学習研究センター



申し込み方法等、詳細は裏面をご覧ください



The pen is mightier than the sword.

5/15

中世文学研究者の「戦争文学」 今井明

「戦争」を生き延び、第二次世界大戦敗戦後「研究者」となった日本の青年たちは、「中世文学」にどのように立ち向かったのか。精緻に、また静かに展開されるロゴス(論理)の世界を支える、彼らのパトス(感情)に触れたい。

6/12

『古事記』の叛乱物語と恋愛譚 月野文子

『古事記』中の代表的な叛乱物語といえるサホビコの反逆物語もハヤブサワケのそれも、恋愛譚が絡められて構成されている。これらの物語を、皇位継承にかかわる歴史的事実などと照合させながら、反逆物語における恋愛譚の意味を探っていく。

7/10

描かれる「戦国」の変化 大久保順子

日本の「戦国時代」を描く作品の多くは江戸時代に発生し、「武士」の役割や社会の変質とも関わりつつ、近現代に至るまで変化していきます。「歴史」以上に後世に影響を与えてしまう「文学」の働きについて考えます。

8/21

漱石と戦争 石井和夫

漱石は兵役を免れるため北海道に戸籍を移した体験を「送籍といふ男」と「吾輩は猫である」の中で自嘲し、丸谷オ一は「徴兵忌避者としての漱石」という批評を書いた。印象を排して、漱石全集の記述に即して、そこから窺われる漱石の戦争観を講ずる。

ヴァイキングとアングロ・サクソン 村長祥子

8世紀以降、ヴァイキングと呼ばれる北方ゲルマン人がイングランドを襲うようになります。この海の猛者の脅威にさらされたアングロ・サクソン人の姿を当時の年代記、聖人伝や英雄詩などを通して紹介します。

9/18

詩人バイロンとナポレオン 田吹長彦

ナポレオン戦争は1815年6月18日のワーテルローの戦いにおけるナポレオンの敗北で終結した。その十ヵ月半後、イギリス・ロマン派詩人バイロンはヨーロッパ旅行の途次、戦場に立った。活字と映像で壮絶な人間世界の断面を探る。

10/9

近代の戦争と英詩 スコット・ヒュー

戦争の脅威ほど詩の題材としてふさわしくないものはあるだろうか。西洋では、19世紀から20世紀になって、ステューブ・クレイン、W.B.エイツなどの詩人が現れ、従来とは異なった視点から戦争を描いた。これらの詩人の作品を紹介する。

11/13

12/11

『武器よさらば』におけるヘミングウェイの戦争観について 馬場弘利

アメリカの大きな戦争は南北戦争、第1次、第2次大戦、ベトナム戦争であるが、講座では第1次大戦を題材にしたヘミングウェイの戦争観を明らかにしたい。他の戦争小説との比較も試み、アメリカ作家の戦争観の変化も考察する。

1/8

第二次世界大戦とアメリカ小説 渡邊真理子

アメリカ文学は第二次世界大戦をどのように表象しているのでしょうか。今回の講座では、カート・ヴォネガット・ジュニアの小説『スローターハウス5』(1969年)を中心に、「戦争を語る」ことの難しさについてお話いたします。

2/12

戦争を語るなんて、できるの？—ベトナム戦争以後の『戦争と文学』を考える— 田吹香子

戦争文学＝戦争を語ること。では、どうやって語るの？語るべきものは何？ベトナム戦争を体験した作家ティム・オブライエンの作品に、新しくもはかない戦争文学の姿を見ていきます。

★受講方法★

■ハガキ、FAX、E-mailにて、受講講座名・郵便番号・住所・氏名・年齢・職業・電話番号を記入の上、下記へお申し込み下さい。お電話も受け付けます。

■申込者は全員受講できますので、受講票の発送はいたしません。男女年齢問わず受講可能です。席に余裕がある場合は、講座最終日 2/12 まで申し込みを受け付けます。(途中からの参加も大歓迎です。)

■台風などの悪天候等で、講座の日時・講師が変更になる場合があります。詳細はセンターまでお問合せいただくか、ホームページをご覧ください。

※受講料は初回受講時に、受付で徴収させていただきます。

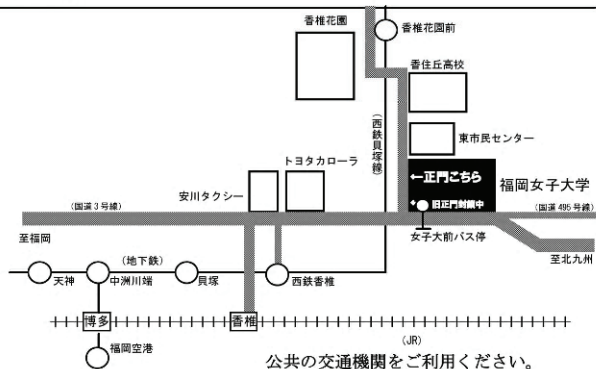
★申し込み・問い合わせ先★

福岡女子大学 女性生涯学習研究センター 担当場
〒813-8529 福岡市東区香住ヶ丘 1-1-1
TEL/FAX: 092-661-2728(直通)
TEL: 092-661-2411/FAX: 092-661-2415(代表)
E-mail: rcle@fwu.ac.jp メール QRコード
URL: http://www.fwu.ac.jp/rcle/



※お知らせ

- 乳幼児と共にご参加の方は本センター職員までお問い合わせ下さい。近隣の一時託児所の情報を提供いたします。
- 福岡女子大学では、学外への本学教員の講師派遣の際の情報提供を目的とした「女性生涯学習研究センター人材バンク」を開設いたしました。リストなどの詳しい情報はホームページをご覧ください。



- JR 香椎駅から徒歩約 15 分
- 西鉄香椎駅から徒歩約 12 分 香椎花園駅から徒歩約 10 分
- 西鉄バス「女子大前」下車 (系統: 21、21A、23、26、26A)

ご提供いただいた個人情報につきましては、公開講座等の実施・運営、本センターからの公開講座等のご案内に使用させていただきます、他の目的には使用いたしません。

資料B-1-②-F 平成22年度春季公開講座

平成22年度 福岡女子大学 春季公開講座

食・健康



—もっと知って、もっと楽しく—



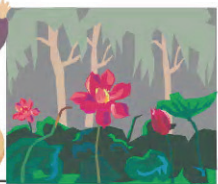
日 程：平成22年 6月9日(水)、16日(水)、23日(水)

時 間：13：10～15：50 (受付は12：30～)

1 講座目 13：10～14：20 2 講座目 14：40～15：50

会 場：福岡女子大学附属図書館1階視聴覚室

受講料：2,000円(全6回分) ※高校生・本学学生は無料 対 象：高校生以上の男女



6月9日(水)

日常生活における光環境と食のかかわり

福岡女子大学人間環境学部教授

森田 健

食品成分のはたらきを考える

福岡女子大学人間環境学部准教授

石川 洋哉

6月16日(水)

食感を楽しもう
文化の中の身体と健康

福岡女子大学人間環境学部准教授

舟木 淳子

—食・運動を中心に—

福岡女子大学文学部助教

一階 千絵

6月23日(水)

賢く食べよう、健康・長寿
健康な熱帯林とは？

福岡女子大学人間環境学部教授

沖田 千代

福岡女子大学人間環境学部助手

美濃部 純子

申し込み・問い合わせ先

福岡女子大学 女性生涯学習研究センター



※申し込み方法等、詳細は裏面をご覧ください※



日常生活における光環境と食のかかわり
森田健



健康的な生活には睡眠と食事は不可欠です。これらと光環境の関わりが指摘されていますが、まだよくわからないところがあります。これまで明らかになっていることと昨年私たちが行った実態調査結果をお話します。

食品成分のはたらきを考える
石川洋哉



近年、健康維持の観点から食品成分が持つ様々な機能が注目されています。本講座では、食品学の立場から食品機能の概要を解説します。また、活性酸素と健康の関わりを解説し、抗酸化食品成分による健康維持の可能性を考えます。

食感を楽しもう
舟木淳子



おいしさを感じる時に、食べ物と同様にテクスチャーも大変重要であると言われていきます。テクスチャーについては、最近、「食感」という言葉が使われることが多いようです。

食感の測定法、食感を改善する研究の例などをお話します。

文化の中の身体と健康
—食・運動を中心に—
一階千絵



「所変われば品変わる」と言いますが、所変われば「身体」「健康」に関する考え方もまた変わります。この講座では古今東西、さまざまな文化における健康を保つための食・運動についてご紹介します。

賢く食べよう、健康・長寿
沖田千代



いかに健康を保って元気に日々を営むか、情報は溢れています。笑いが働きかける効果や脳がいつまでも活気に溢れる生活など、前向きな知識の中から、自分のからだに合う健康法を自分のからだに問いかけながら楽しく選びましょう。

健康な熱帯林とは？
美濃部純子



熱帯林にはいろんな種類の生物が棲んでいます。開発によって熱帯林の面積が減少すると、森林の質も変化してしまいます。

そのことは私たちの未来とどう関係があるのでしょうか。マングローブを例に考えてみましょう。

※受講方法※

■ハガキ、FAX、E-mail、電話にて、受講講座名・郵便番号・住所・氏名・年齢・職業・電話番号を記入の上、下記へお申し込みください。

■申込者は全員受講できますので、受講票の発送はいたしません。男女・年齢問わず受講可能です。席に余裕がある場合は、講座最終日 6/23 まで申し込みを受け付けます。(途中からの参加も大歓迎です)

■台風などの悪天候等で、講座の日時・講師が変更になる場合があります。詳細はセンターまでお問い合わせいただくか、ホームページをご覧ください。

※受講料は初回受講時に、受付で徴収させていただきます。

※申し込み・問い合わせ先※

福岡女子大学 女性生涯学習研究センター 担当堤

〒813-8529 福岡市東区香住ヶ丘 1-1-1

TEL/FAX: 092-661-2728(直通)

TEL: 092-661-2411 /FAX: 092-661-2415(代表)

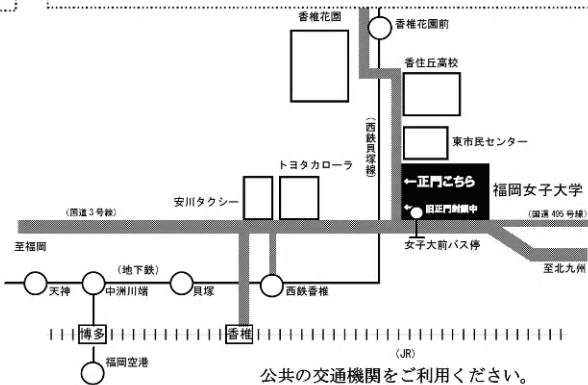
E-mail: rcle@fwu.ac.jp

URL: <http://www.fwu.ac.jp/rcle/>

※お知らせ

■乳幼児と共に参加の方は本センター職員までお問い合わせください。近隣の一時託児所の情報を提供いたします。

■福岡女子大学では、学外への本学教員の講師派遣の際の情報提供を目的とした「女性生涯学習研究センター人材バンク」を開設いたしました。リストなどの詳しい情報はホームページをご覧ください。



- JR 香椎駅から徒歩約 15 分
- 西鉄香椎駅から徒歩約 12 分 香椎花園駅から徒歩約 10 分
- 西鉄バス「女子大前」下車 (系統: 21、21A、23、26、26A)

提供いただいた個人情報につきましては、公開講座等の実施・運営、本センターからの公開講座等のご案内に使わせていただきます、他の目的には使用いたしません。

資料B-1-②-G 海外からの短期留学生受け入れ（平成21年度）

大学	期間	受け入れ人数
タシケント国立東洋学大学、プハラ国立大学 (福岡女子大学広報 75号より) http://www.fwu.ac.jp/koho/75/koho_213.html	10月12日～18日	学生4名
カリフォルニア州立大学ノースリッジ校 (福岡女子大学広報 74号より) http://www.fwu.ac.jp/koho/74/koho_184.html http://www.fwu.ac.jp/koho/74/koho_185.html	6月6日～6月28日	学生12名、教員2名

資料B-1-②-H 学術交流協定を締結した海外大学一覧

協定日	大学名	国(地域)名	備考
2008.1.29	カリフォルニア州立大学ノースリッジ校	アメリカ	大学間協定
2009.8.25	東亜大学校工科大学	大韓民国	部局間協定(人間環境学部)
2009.9.19	ベトナム国家大学ハノイ校	ベトナム	大学間協定
2009.9.30	梨花女子大学校	大韓民国	大学間協定
2009.11.20	タシケント国立東洋学大学	ウズベキスタン	大学間協定
2010.1.25	ルーバン・カトリック大学	ベルギー	大学間協定
2010.3.10	ルートヴィヒ・マクシミリアン大学(ミュンヘン大学)	ドイツ	学生交流に関する学長確認書
2010.3.15	チュラロンコーン大学	タイ	大学間協定
2010.3.18	釜山外国語大学校	大韓民国	大学間協定
2010.3.19	ガジャマダ大学	インドネシア	大学間協定
2010.4 (調印合意済み)	タマサート大学	タイ	大学間協定

別添資料B-1-②-1 社会人女性のための生涯学習用おすすめ科目(パンフレット)

【分析結果とその根拠理由】

中期計画で掲げた事項に基づき、出張講義や免許更新講習、公開講座等を実施しており、計画に基づいた活動が適切に実施されていると判断する。

観点B-1-③： 活動の結果及び成果として、活動への参加者が十分に確保されているか。また、活動の実施担当者やサービス享受者等の満足度等から判断して、活動の成果が上がっているか。

【観点到に係る状況】

(1) 青少年期の教育支援

高校へのお出張講義は、平成21年度の受講生(高校生)は、延べ608人(19校)であった。受講生にアンケートを実施したところ、4段階評価のうち上位2段階「すごくおもしろかった」、「良かった」と回答した受講生が、96%を占めており、参加者は非常に高い満足度を示している。本学で実施した体験授業(6授業)に参加した高校生は61名(2高校)であり、参加者全員が満足であったとのアンケート結果であった。

(2) 就労期の教育支援、壮年・高齢期の学習支援

聴講生等の受け入れは、平成 21 年度が、聴講生 6 人、科目等履修生 4 人、研究生 3 人である(資料 B-1-③-A)。また、他大学との単位互換制度に基づき、平成 21 年度は 3 大学から 17 人の学生を受け入れた。教員免許更新講習は、平成 21 年度は 77 人(延べ)の受講生を得た。

女性生涯学習研究センターによる公開講座の受講者数は、平成 19 年度～21 年度の平均が延べ 1,771 人であり、受講者にアンケートを実施した結果、5 段階評価のうち上位 2 段階「非常に良い」「良い」と回答した受講生が、77.1%を占めており、概ね高い満足度を示している(資料 B-1-③-B)。ただし、本学が教員数 60 名程度の小規模大学であるため、公開講座のテーマ等の選択が限定される傾向にある。

資料 B-1-③-A 年度別科目等履修生数及び聴講生数

種別	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
科目等履修生	3 (31)	3 (21)	3 (30)	6 (32)
聴講生	2 (3)	0 (0)	3 (4)	4 (13)

※ 表中の()内の数字は、科目等履修生については延べ総修得単位数を、聴講生については延べ総修得科目数を示す。

資料 B-1-③-B 公開講座等の受講者数及びアンケート結果(平成 19 年度～21 年度)

区分	受講者数(延べ)			良好評価		
	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
土曜公開講座	885 人	297 人	234 人	78.6%	82.6%	72.0%
春季公開講座	316 人	190 人	220 人	64.7%	71.0%	83.0%
秋季公開講座	219 人	446 人	232 人	77.1%	82.2%	82.5%
自由企画講座	936 人	632 人	707 人	—	—	—
小計/平均	2,356 人	1,565 人	1,393 人	73.5%	78.6%	79.2%
平均	1,771 人			77.1%		

○ 参加者が希望するテーマ(平成 21 年度)

土曜公開講座	塩分と健康/歴史/食品・体によい長寿のための食生活や運動/地方の歴史・地方史/食育/博多湾東部の環境問題・和白干潟の環境問題/地域へのかかわり方・地域づくり/文学/現代文学・平安時代の物語
春季公開講座	日本の針路/古典・歴史・語学/福祉・物語の多様な視点/古典・古文書を読み解く/シェイクスピア・推理小説の根底/本日のテーマ(オースティン・アーサー王)を再度より深く/文学の必要性・文学と人生のかかわり (コメント:素人にわかりやすいものなら何でも良い、3日連続はしんどい)

【分析結果とその根拠理由】

公開講座では、継続的に受講者数を確保しており、受講者アンケート結果も良好である。出張講義も一定数の受講者数を得て、満足度も高い。その他の受け入れについても、概ね十分な参加者数等を得られている。

以上のことから、活動への参加者が十分に確保されており、活動の成果も上がっていると判断する。

観点 B-1-④: 改善のための取組が行われているか。

【観点到に係る状況】

中期計画・年度計画に基づいた上記の活動は、毎年度、その実施状況について、各担当部局において自己点検・

評価を行い、その結果を基に、理事会、経営協議会、教育研究協議会、自己点検・評価委員会等の検討・審議に付されている。そして、大学活動全体の業務実績報告書としてまとめられ、設立団体である福岡県に設置された福岡県公立大学法人評価委員会による評価を受けている。

これらの理事会等や福岡県公立大学法人評価委員会の評価結果は、各担当部局において、次年度の事業の検討等にフィードバックされている（資料B-1-④-A）。特に、公開講座については、女性生涯学習研究センターにおいて、受講者アンケートの結果や実施主体である教員の意見を踏まえて、次年度の公開講座の企画立案に反映させている。

資料B-1-④-A 改善事例

- ・ 女性生涯学習研究センターでは次年度公開講座企画会議（平成 21 年度は 10 月 16 日）を開催し、春季・秋季公開講座、土曜公開講座の日程、テーマを決定している。平成 22 年度の公開講座のテーマ（食と健康、エコ）は受講者のアンケート結果（春季講座参加者 220 名中の 146 名が回答）に基づいて決定した。
- ・ 高校への出張講義時に受講生にアンケートを実施し、テーマの希望等を聞き、次年度の講義計画の参考とし、テーマ等の調節・決定は入学試験部会で実施した。

【分析結果とその根拠理由】

毎年度、実施状況について、自己点検・評価及び学外者による評価を受けている。また、公開講座、出張講義は受講者アンケートを実施しており、それらを事業の改善に活用していることから、改善のための取組が行われていると判断する。

（２）目的の達成状況の判断

本学の正規課程の学生以外に対する教育サービスは、中期目標を踏まえ、各担当部署で企画・立案し、開催等の情報をホームページ等への掲載等により広く周知したうえで、実施している。また、多くの参加者が確保できしており、アンケート調査の結果も概ね好評である。一方、参加者のニーズ聴取等に基づき施策の見直し、点検を実施し、以降の事業の計画・実施に反映している。

以上により、目的の達成状況は良好である。

（３）優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

- 高校へ出張講義も毎年 20 件程度実施され、500 名以上の高校生に対して講義を行っており、受講者からのアンケート結果も非常に好評である。
- 本学主催の公開講座・自由企画講座については、延べ受講者総数の平均は 1,700 人を超えている。これらの講座のアンケート結果も概ね好評である。また、これらの講座は毎年 20 名程度の講師により運営されているが、本学の全教員の約 1/3 が参加し、本学の人的資源が有効に活用されている。

【改善を要する点】

- 本学は文学部と人間環境学部の 2 学部構成、教員数 60 名程度の小規模大学であり、公開講座のテーマ等の選

択が限定される傾向にある。

(4) 選択的評価事項Bの自己評価の概要

公開講座の開設その他の学生以外の者に対する学習の機会を提供することを法人の業務範囲と規定し、大学が保有する人材や知識等を活用して、就業中の女性や転職・復職を希望する女性を対象としたリカレント教育などを実施し、積極的な社会貢献を果たすことを中期目標に掲げている。この中期目標に沿った中期計画、年度計画において、社会貢献について具体的方策を定めている。この中期計画、年度計画に基づき、女性生涯学習研究センター、入学試験部会、国際交流センターを中心として、公開講座等の開催、出張講義・体験授業などの高大連携事業、研究生・科目等履修生等の受け入れ、海外大学からの短期留学生の受け入れ等を実施している。

これらの計画や事業は、ホームページや広報誌等により広く一般に周知・公表している。いずれの事業においても、十分な参加者等を確保できており、アンケート調査結果においても概ね好評であることから、活動の成果は上がっている。

一方、参加者のニーズ聴取等に基づき、各担当組織において、施策の見直し、点検を実施し、以降の事業の計画・実施に反映している。